

学校名	伊万里市立立花小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である						
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、学校教育活動全般に肯定的な評価と一定の理解を得た。更に保護者・地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校」につなげていく。また、コミュニティスクールを生かし、地域人材や地域産業、郷土の歴史等の積極的な活用を図っていく。 学力向上を図るため、県学習状況調査等の結果を更に詳細に分析し、具体的な手立てを摸索する必要がある。また、全職員の共通理解のもと、共通実践、継続した取り組みを行っていく必要がある。 児童が安心して学校生活を送ることができるよう、他者への思いやりの気持ち、自己肯定感を高める教育実践に努めていく必要がある。また、教師自身がいじめに対して常にアンテナを高くし、児童に関わることができるようにしていく必要がある。 学校の教育活動や教職員の業務効率化については、成果と課題を踏まえて、更に見直し・充実させていく必要がある。 教育相談や特別支援教育及び個別の支援について、共通理解のもと、職員間での組織的な対応ができた。また、保護者や関係機関と連携を密に図り、協力しながら、適切な指導や支援にあたることができた。専門機関からの指導等を積極的に取り入れながら、更に充実を図りたい。 								
2 学校教育目標	たくましく心豊かな立花の子 ～いい顔・いい声・いい行動 いっぱいのカラフルな学校～								
3 本年度の重点目標	① 豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進と校内研究の充実 ② 基礎基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ③ 地域力（ひと・もの・こと）を積極的に活用した「地域とともにある学校」づくり								
4 重点取組内容・成果指標	中間評価		最終評価		主な担当者				
(1)共通評価項目	評価項目	取組内容	具体的取組	中間評価		最終評価	学校関係者評価		
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業中、めあてを持って学習し、学習した内容を振り返ることができる」と回答した児童の割合を80%以上にする。 ○「自分の考えを分かりやすく書くこと・正しく伝えること」「友達の考え方をしっかりと聞くこと」が「できた」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○教師アンケートで「主体的、対話的で深い学びの実現に向けて授業に取り組むことが「できた」と答える教員の割合を100%にする。	教職員間で学力向上対策評価シートを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・『立花型授業』の定着を進め、児童の学習習慣の確立を図りながら、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 ・児童が学び合う場を設定し、自分の考えを的確に表現したり、友達の考えを聞いたりして、理解を深めることのできる児童を増やす。	・	・	・	・		
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分を大切にし、向上心と思いやりの気持ちをもって行動できる児童80%以上 ○生活アンケート、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・「フラワー大作戦」の実施とともに、「友達のいいところさがし」に随時取り組む。 ・伊万里市「心の教育3セット」の活用を図る。	・	・	・	・	
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義理解、いじめ防止のための取組、事案対処等）について組織的対応ができると回答する教員90%以上 ○いじめに対する学校生活アンケートで、全項目において否定的な回答をした児童を10%以下にする。	・毎月末の「月のこころ」を記入し、開発的・予防的生徒指導へつなげる。QUテストを2回実施し、学級経営に活用していく。 ・いじめ対応についての研修・会議を学期に1回以上行う。	・	・	・	・	
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのおいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・全ての教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、実現を目指して意欲的に取り組もうとする態度を育むキャリア教育を推進する。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となつた体験活動などにより、地域への理解と郷土への誇り・愛着を育む。	・	・	・	・	
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童の交通事故を0（ゼロ）にする。	・交通教室等の学校行事や全ての教育活動を通して、児童の危機予測や危機回避の意識を高める。 ・子ども見守り隊、地区交通対策協議会との連携を密にする。 ・定期的な安全点検と危険箇所の早期発見に努める。	・	・	・	・		
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりの発行をする。 ・食に関する学習（食育）について授業を実施する。	・	・	・	・		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の確実な実施をする。 ・在校等時間の正確な記録と把握をする。 ・校時程を有効活用し、学級事務・成績処理の時間の確保に努める。	・	・	・	・		
	○学校行事や業務内容の見直し	○学校行事や校務を見直し、働き方に対する改善が図れたと考える教員80%以上	・各分掌間の連携及び情報共有を図る。 ・校務分掌に添った各部会の業務内容、役割分担を点検し、組織の見直し、改善を行う。	・	・	・	・		

	●特別支援教育の充実	○個に応じた特別支援教育の推進	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、情報共有を行う。 ・個別の支援計画にもとづく支援体制を構築し、校内の連携を図る。		様式1(小・中)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目														
重点取組			具体的な取組	中間評価			最終評価			学校関係者評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言					

○地域・家庭との連携	○地域とともにある学校づくりと教育活動の積極的な情報発信	○保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者や地域の人が授業や学校行事に参加しやすいように工夫している。」と回答した割合を85%以上にする。 ○保護者アンケートにおいて、「学校は、家庭への連絡や行事等の案内、取組の様子などについて、情報発信をしている。」と回答した割合を85%以上にする。	・コミュニティ・スクールを推進し、地域力を学校運営に積極的に導入する。 ・保護者への啓発資料の提供や相談体制の充実を図る。 ・学校・学級通信、連絡メール、学校HPの充実を図り、理解や協力を得られる情報発信に努める。	
○校内研究の推進	○特別の教科道徳の授業実践と研究成果のまとめ	○道徳科の教材研究、授業実践に意欲的に取り組んだ教員90% ○児童への道徳アンケートで「道徳で学習したことを実生活に生かそうとする」割合を80%以上にする。	・道徳科について、指導と評価の在り方について全職員で研修を深める。 ・ふれあい道徳や道徳に関するアンケートを実施する。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------